

エコアクション21 環境経営レポート

(2024年度)

活動期間 2024年4月～2025年3月



しなやかに

MIZUMACHI

株式会社 ミズマチ

発行日 2025年4月1日

目次

1, 組織の概要及び対象範囲	・・・2ページ
(1) 事業所の所在地及び代表者氏名	
(2) 所在地	
(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先	
(4) 事業内容	
(5) 事業の規模	
(6) 事業年度	
(7) 認証・登録範囲	
2, 実施体制	
(1) エコアクション21推進組織図	・・・3ページ
(2) 各自の役割・責任及び権限	
3, 環境経営方針	・・・4ページ
4, 環境経営目標	
(1) 中期環境経営目標	・・・5ページ
(2) 次期中期環境経営目標	・・・6ページ
5, 環境経営計画	
(1) 2024年度環境経営計画	・・・7ページ
(2) 次年度取組内容	・・・8ページ
6, (1) 環境目標の実績	・・・9ページ
(2) 環境経営計画の取組結果とその評価	・・・10ページ
7, 環境関連法規等の取りまとめ順守評価	・・・11ページ
8, 代表者による全体の評価と見直しの結果	・・・11ページ
9, GX活動報告	・・・12ページ ・・・13ページ

1. 組織の概要及び対象範囲(認証・登録範囲)

□ 組織の概要

(1)名称及び代表者氏名

株式会社ミズマチ

代表取締役 水町 晋康

(2)事業所の所在地

佐賀県佐賀市兵庫町大字若宮210-1

(3)環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 総務部長 水町 幸浩

連絡先 TEL 0952-26-2311 FAX 0952-29-7713

E-mail mizumachi-y@mizumachi.com

(4)事業内容

工業用資材・農業用資材・建設用資材の卸小売業
及び省人省力機器の製造販売

(5)事業の規模

【資本金】 2,000万円

【総売上高】 16億3,848万円

【従業員】 32名

【敷地面積】 7,634m²

【建物面積】 3,153m²

(6)事業年度

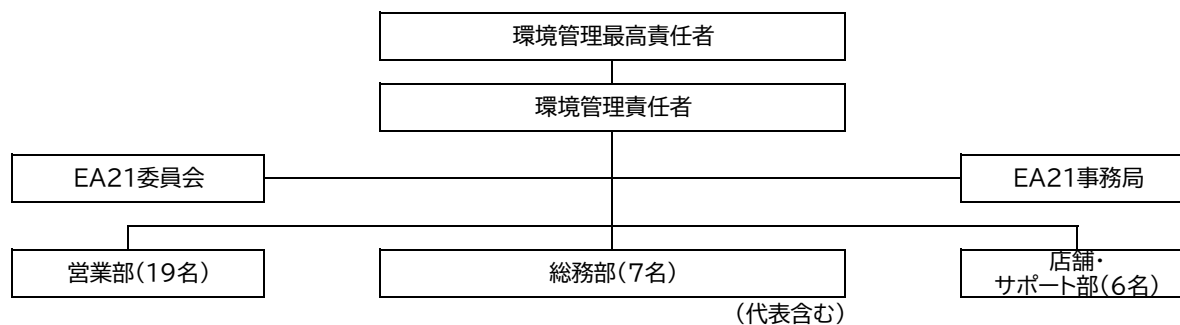
4月～3月

(7)認証・登録範囲

登録事業所 : 本 社

2. 実施体制

1)エコアクション21推進組織図



2)各自の役割・責任及び権限

所 属	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表取締役	・環境経営に関する統括責任 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定、見直し及び全従業員への周知 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動のレポートの承認 ・環境関連法規等取りまとめ表の承認 ・環境目標、環境活動計画書を承認 ・緊急事態への対応マニュアルの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実地、管理 ・環境活動の取り組み結果を代表者に報告 ・環境関連法規等取りまとめ表の確認 ・環境活動レポートの作成 ・環境目標、環境活動計画書と実績表の作成と確認 ・緊急事態への対応マニュアルの確認 ・全従業員に対する教育・訓練の実績記録表の承認 ・問題点の発見、是正、予防処理票管理表の承認 ・環境関連の外部コミュニケーションの記録受付表承認
エコアクション21事務局	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェック実施 ・問題点の発見、是正、予防処理票管理表の作成 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口・記録受付表作成
エコアクション21委員会	・環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・緊急事態への対応マニュアル作成 ・問題点の発見、是正、予防処置の実施
全 従 業 員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動へ参加

環境経営方針

基本理念

当社は、農業用・工業用・土木建築資材の卸・小売業です。

この事業活動において「人と空・水と大地を大切にしたい」をコンセプトに地球環境保全を経営課題の一つに位置付け、全従業員が全ての事業活動及び地域社会活動、ならびに社内外・家庭環境においても、自主的かつ積極的に環境問題に取り組み、社会の持続的可能な発展に貢献します。次の世代へ綺麗な地球をバトンタッチできるような会社であり人間であることを大事にします。

行動指針

環境経営システムを構築・運用し、環境負荷の低減を継続的に推進します。

そのために以下の事項を重点的に取組みます。これらを環境経営目標及び活動計画に定め、定期的な見直しを実施します。

1. 環境教育を通して社員の環境意識の向上と環境パフォーマンスの向上に努める。
2. 環境関連に関する法規制等を順守し、環境保全に努める。
3. 事業活動のあらゆる場面で、環境汚染予防を図るため、以下の項目について重点的に推進する。
 - (1) 二酸化炭素排出量を削減する為、電気・燃料使用量の削減に努める。
 - (2) 廃棄物排出量削減の為、廃棄物の分別を強化し、リサイクルに努める。
 - (3) 水使用量削減の為、事務所水使用量の削減に努める
 - (4) 社内において、環境にやさしいグリーン商品の積極的採用に努める。
 - (5) エコ商品の販売を通して、エコ活動の推進に努める。
 - (6) 5S運動の定着化の推進を行い、無駄のない社内環境改善に努める。
4. 環境方針は定期的に見直しを行い、環境目的・環境目標に反映させ、継続的改善を図る。
5. 環境方針は社内に掲示し、全社員への周知徹底を行う。

2020年12月1日(改正)

株式会社 ミズマチ

代表取締役社長 水町 晋康

4. 環境経営目標

(1). 中期環境経営目標

①二酸化炭素排出量

※1 CO2排出係数は、九州電力:0.382kg-CO2/kwh(調整後排出係数)を採用
(化学物質の使用はありません)

種類	単位	2021年度実績 (基準値)	2022年度目標	2023年度目標	2024年度目標 (2023年度から 1%削減)
二酸化炭素排出の削減	kg-CO2	118,941	116,494	115,327	113,880
電気使用量	kwh	82,303	78,187	77,405	75,865
燃料使用量	ガソリン	L	20,973	20,763	20,555
	軽油	L	14,817	14,669	14,522

※電気使用量:事業量変化の為、2023年度目標は2022年度より1%削減。

※燃料使用量:2021年度より毎年1%削減目標。

②総廃棄物排出量

種類	単位	2021年度実績	2022年度目標	2023年度目標	2024年度目標
一般廃棄物排出量	トン	6.79	6.72	6.65	6.58
産業廃棄物排出量	トン	6.92	6.85	6.78	6.71

※2021年度実績からの毎年1%削減目標

③水の使用量

種類	単位	2021年度実績	2022年度目標	2023年度目標	2024年度目標
水の使用量	m ³	362.0	250.0	247.5	245.0

※2022年度以降は毎年1%削減目標

④グリーン購買の推進

種類	単位	2021年度実績	2022年度目標	2023年度目標	2024年度目標
グリーン商品採用	件数	27	30	31	32

※2022年度以降は毎年1品増加目標

⑤エコ販売商品の販売推進

種類	単位	2021年度実績	2022年度目標	2023年度目標	2024年度目標
エコ商品の販売	円	2,499,411	2,748,000	2,885,400	3,029,670

※2022年度以降は毎年5%増加目標

⑥5S運動の定着化の推進

種類	単位	2021年度実績	2022年度目標	2023年度目標	2024年度目標
整理整頓チェック(月2回)	回	24回	24回	24回	24回

4. 環境経営目標

(2). 次期中期環境経営目標

※ CO2排出係数は、九州電力:0.406kg-CO2/kwh(調整後排出係数)を採用
(化学物質の使用はありません)

①二酸化炭素排出量

種類	単位	2023年度実績 (基準値)	2025年度目標 (2023年度から3%削減)	2026年度目標 (2023年度から6%削減)	2027年度目標 (2023年度から12%削減)
二酸化炭素排出の削減	kg-CO2	116,517	113,021	109,526	102,535
電気使用量	kwh	70,556	68,439	66,323	62,089
燃料使用量	ガソリン	L	17,192	16,676	15,129
	軽油	L	18,309	17,760	16,112

※2023年度実績値を基準とし、2030年までに二酸化炭素排出量を42%削減する。

毎年、2023年を基準とし、3%ずつ削減を目標とする。

※2023年度を基準とする理由として、GX活動と共通認識とするため。

②総廃棄物排出量

種類	単位	2023年度実績	2025年度目標 (2023年度から1%削減)	2026年度目標	2027年度目標
一般廃棄物排出量	トン	7.27	7.20	7.12	7.05
産業廃棄物排出量	トン	4.09	4.05	4.01	3.97

※2023年度実績からの2025年度は1%削減目標。毎年2023年度を基準とし1%ずつ削減していく

③水の使用量

種類	単位	2023年度実績	2025年度目標 (2023年度から1%削減)	2026年度目標	2027年度目標
水の使用量	m ³	227.0	224.7	222.5	220.2

※2023年度実績からの2025年度は1%削減目標。毎年2023年度を基準とし1%ずつ削減していく

④エコ販売商品の販売推進

種類	単位	2023年度実績	2025年度目標 (2023年度から10%増加)	2026年度目標	2027年度目標
エコ販売商品の販売推進	万円	3,825	4,208	4,590	4,973

※2023年度実績からの2025年度は10%増加目標。毎年2023年度を基準とし10%ずつ増加させていく

⑤5S運動の定着化の推進

種類	単位	2023年度実績	2025年度目標	2026年度目標	2027年度目標
整理整頓チェック(月2回)	回	24回	24回	24回	24回

※年間24回を必ず実施していく

5 環境経営計画

(1). 2024年度 環境経営計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		活動項目	責任者	スケジュール			
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	電気使用量の1%削減	1 unnecessary電灯をこまめに消す(人感センサーへ変更)	片江	←			→
		2 空調機器の温度設定を管理する	水町	←	→	←	→
		3 有線放送の放送時間を短縮する	片江	←			→
		4 空調機器のフィルター清掃実施(6,11月)	古川	←	→	←	→
		5 事務PCのパワーセーブの徹底をする	水町	←			→
		6 蛍光灯及び器具を省エネタイプへ切替する	古川	←			→
		7 事務所・休憩室への網戸の設置での温度管理	古川	←		→	
		8 夏季シーズンは遮光カーテンの設置を行う	古川		←	→	
		9 来客へのお茶出し等の廃止と非接触対応徹底	片江	←			→
		10 アイドリンクストップの徹底(社外・社内)	古川	←			→
		11 充電式車両の導入とガソリン使用の抑制	水町	←			→
		12 LED照明の使用拡大	水町	←			→
2	燃料使用量の1%削減	1 毎日の走行距離及び給油量の把握をする	水町	←			→
		2 車輛整備の手順の確立をし、整備工場に依頼をする	水町	←			→
		3 エコドライブ10カ条の従業員さんへの周知徹底	水町	←			→
		4 直送出来るものは直送する	水町	←			→
		5 リモートワークを実現し、出社時の車使用量削減を推奨する		←			→
		6 配送業者の家で荷物受取を会社受取を推奨する	水町	←			→

2. 産廃物排出量の1%削減

取組目標		活動項目	責任者	スケジュール			
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	紙類のリサイクル量を増やす	1 紙くず以外のリサイクル量を増やす	水町	←			→
		2 コピー用紙及び文書類の裏面紙活用	水町	←			→
		3 全体会議の回数減での紙資料の大幅削減	水町	←			→
		4 チャットツールを利用し、紙資料の大幅な削減	水町	←			→
2	その他の産廃物については分別を強化し、リサイクルの量を増やす	1 プラスチック系のリサイクルの量を増やす	本島	←			→
		3 ペットボトルのつぶし器で細かくする	本島	←			→
		3 廃棄物の分別を細かく分別する	本島	←			→
		4 FAXを電子化したものでメール受信を促進する	本島	←			→
		5 リサイクルできるものは再利用し「もったいない」の実践	本島	←			→

3. 総排水量の1%削減

取組目標		活動項目	責任者	スケジュール			
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	節水に努める	1 蛇口の近くに節水の標示を貼り、節水に努める	水町	←			→
		2 センサー式蛇口の取付で、出しっぱなしを行わない	水町	←			→
2	手洗いの徹底とアルコール使用	1 手洗いの回数が増えたが、出しっぱなしで使用しない	水町	←			→

4. グリーン商品購入の推進 毎年1品以上増(ファイル・コピー用紙・カードケース・ボールペン替芯・蛍光ペン・マジックインキ他)

取組目標		活動項目	責任者	スケジュール			
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	グリーン商品購入の推進	1 グリーン商品の調査(毎年)	片江	←	→		
		2 グリーン商品への切替	片江		←	→	

5. エコ販売商品の販売推進

取組目標		活動項目	責任者	スケジュール			
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	エコ商品の販売推進	1 エコ商品の実績調査と販売促進品選定(毎年)	本島	←	→		
		2 エコ商品への切替を営業へ促す	本島		←	→	

6. 5S運動の定着化の推進

取組目標		活動項目	責任者	スケジュール			
				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	整理整頓チェック(月2回)	1 月2回の整理整頓チェックを行いものを大切にする	水町	←			→

5 環境経営計画

(2). 次年度取組内容 (2025年度取組内容)

二酸化炭素排出量削減の為の取組目標と取組方法

- ◎ 電気使用量の削減(基準値より3%削減)
- ① 不必要な電灯をこまめに消すの徹底
- ② 空調機器の設定温度を夏25℃、冬20℃にする。
- ③ クールビズ、ウォームビズ期間を1年中とし、本社内ではカジュアルな服装とする
- ④ 空調機器のフィルターの清掃をする。毎年8月・12月に実施
- ⑤ 空調室外機の清掃活動の徹底(5.7.9.11月)
- ⑥ 事務コンのパワーポイントセーブの徹底をする
- ⑦ 事務所・倉庫内の完全LED化の継続
- ⑧ 事務所窓の二重窓化での遮熱、保温効果向上
- ⑨ 一斉に使用するエアコンの使用制限を行い電力使用量を削減する
- ⑩ 倉庫のシートシャッターの自動化による保温効果の向上
- ⑭ 全社員へ省エネ活動の啓発を定例会議時にて各種進捗を公表する

燃料使用量の削減の為の取組目標と取組方法

- ◎ 燃料使用量の削減(基準値より3%削減)
- ① 毎日の走行距離及び給油量を記入し使用量の削減の意識付けをする。
- ② 車両整備の手順の確立をし、整備工場に依頼をする。
- ③ エコドライブ10カ条の徹底をする。
- ④ 営業車のアイドリング禁止の徹底をする。
- ⑤ 直行直帰での現場への行き来を実現し、出社時の車使用削減による二酸化炭素の抑制を行う
- ⑥ 大型車の後部座席とのセパレートカーテンをつけ空調調整
- ⑦ 営業車の燃費の見える化を行い、燃費を向上させるように意識づけさせる
- ⑧ エコドライブ講習の実施による燃費向上
- ⑩ 敗訴ルートの見直しの継続
- ⑪ 営業車にEV車2台の導入を行い、ガソリン使用の抑制を行う

産業廃棄物の排出量削減の為の取組目標と取組方法

- ◎ 産業廃棄物の排出量の削減(基準値より3%削減)
- ① 紙類については、紙くず以外は原則的にリサイクルに廻す。
社内規則にて回覧している裏面紙の用途別分類表及びリサイクル紙類の処分方法の具体策に沿って、処理する。
- ② ペットボトルのつぶし器にて細かくする。
- ③ その他の産廃物については、分別を強化し、リサイクルの量を増やす。
- ④ FAXを電子化したものでメール受信を促進し、紙での受信をしない試みを強化する
- ⑤ 倉庫改修など、リサイクルできるものはリサイクルし使用する。「もったいないの実践」
- ⑥ 家庭において要らない食料品を、社内で貰い手をみつけ食料廃棄を意識する
- ⑦ 工事での産廃回収を極力行わない

水使用量の削減の為の取組目標と取組方法

- ◎ 水使用量の削減(基準値より3%削減)
- ① 蛇口の近くに節水の標示を貼り、節水に努める。
- ② 自動水栓への切替にて水を出しっぱなしにしない
- ③ 車洗浄等は、地下水を使用し使用量を抑制する
- ④ 洗濯機の使用を1回/日で行い使用量を抑制する

エコ販売商品の販売推進取組方法

- ◎ グリーン商品(販売)(年間10%販売向上)
- ① 弊社で扱えるエコ商品の販売を行い、弊社に関連する企業様の環境活動の取組を支援する
- ② 弊社の売れ筋と傾向を見極め、営業への周知を行っていく
- ③ 引き合いが強い、バッテリー式電機工具の販売強化を店舗でも展示販売を強化する
- ④ 空調工事や断熱工事による得意先の省エネ拡大に努める

5S運動の定着化の推進

- ① 社内の整理・整頓・清掃・しつけの重要性
5Sは、企業経営における基礎、基盤を形つくる重要不可欠な改善活動であり
月2回の社内チェック日を設けて優秀な課は年間表彰を実施。
(週1回の定期清掃も行いながら意識を高めていく)

6-(1). 環境目標の実績

○取組期間 2024年4月～2025年3月

目 的	単位	基準年 2021年4月～ 2022年3月	目標 2024年4月～ 2025年3月	実績 2024年4月～ 2025年3月	達成率	評価
二酸化炭素排出の削減	kg-CO2	118,941	113,880	115,105	98.9%	○
電気使用量	kwh	82,303	75,865	71,262	106.5%	○
ガソリン	L	20,973	20,349	18,757	108.5%	○
軽 油	L	14,817	14,377	16,927	84.9%	×
総廃棄物排出量の削減	トン	13.71	13.29	8.94	148.7%	○
一般産廃物排出量	トン	6.79	6.58	5.64	116.7%	○
産廃物排出量	トン	6.92	6.71	3.30	203.3%	○
水使用量の削減	m³	362	245	215	114.0%	○
グリーン商品の購入推進	件数	27	32	38	118.8%	○
エコ販売商品の販売促進	円	2,499,411	3,029,670	5,060,353	167.0%	○
整理整頓チェック(月2回)	回	24回	24回	24回	100.0%	○

【評価基準】

- :達成(95%以上)
- △ :未達成だが、努力が見られる(90%以上95%未満)
- × :未達成(90%未満)

6-(2) 環境経営計画の取組結果とその評価（2024年度）

二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素の排出量は大幅に目標を達成することが出来ました。達成要因としては、目標の見直しを行ったことが一番であると思いますが、それでも前年と比較しても削減することができました。目標達成に向け特に力を入れたことは以下となります。

- ① 空調の温度設定、夏場26℃、冬場の20℃設定を徹底した。また風量も「弱または自動」で徹底しました。
- ② 朝一の立上時の空調使用を極力抑え、バランスを見ながら空調の使用を行った。また見回りをしながら強めにつけている箇所は、空調を調整してまわった。
- ③ 営業車の燃料使用量を抑える為、エコドライブに対する意識を会議等で営業に対して何度も訴えた。
- ④ 営業車の空調が効きやすくするために、セパレートカーテンを設置を徹底した。
- ⑤ 営業車の空調を、温度MAX、風量MAXで使用しないように会議等で営業に対して何度も訴えた。

以上のことを年間通して必要以上に訴えることで、皆の意識に変化が起きたと考えます。今後も継続していく。

総廃棄物排出量の削減

産業廃棄物の排出量に関しては、目標を達成することができました。普段よりゴミの分別の徹底やゴミステーションの整理整頓徹底することでゴミを何でも出さない抑止をしていることが効果的であると思います。近年は倉庫の改修等で出た産廃もありましたが、改装も落ち着きましたので総排出量が減少したことも要因であると思います。何でも捨ててよいとの産業廃棄物置き場の考えから、まずは分別を徹底する事の重要性。産廃は弊社の管理体制問題の観点上からも無暗に持ち帰らないことを徹底することで数量が減少したと思います。また業務のIT化も少しづつ進んでおり、紙媒体の減少にも繋がっています。

総排水量の削減

総排水量につきましては継続して減少させることが出来ています。手洗などにおける使用量が増えた分、自動洗浄機を導入したり、営業車の洗浄には水道でなく地下水の使用するように徹底。営業への教育を再度行った結果であると思います。

グリーン購買の推進

当社で使用する文房具品については、極力グリーン商品を使用する。今期も36品目の採用と大幅に採用を行えた。今期も継続して3品の採用増加を行った。継続したグリーン商品の使用を促していきたい。しかし近年は事務の効率化やIT化により事務用品の購入も減少傾向にあります。

エコ販売商品の販売推進

一昨年から、弊社はメーカーではないので二酸化炭素の排出量の削減には限界があると思い、省エネ商品等の売上強化にも力をいれるようにしております。今年度は昨年の商品等々に加え、機械電機工具のエンジン式商品でなく、バッテリー式を推進しながら販売促進を行い、販売強化を行うことを継続した。エンジン式からバッテリー式への切替を行うお客様の増加が顕著であり、エコ商品の販売が大幅に伸びている。今後もエンジン式からバッテリー式への切替を営業に推進してもらうようにしています。

5S運動の定着化の推進

- ① 社内の整理・整頓・清掃・しつけの重要性
5Sは、企業経営における基礎、基盤を形つくる重要不可欠な改善活動であり
月2回の社内チェック日を設けて優秀な課は年間表彰を実施。

昨年より月2回の社内チェック日に加え、週1回の定期清掃をすることで、社内の整理整頓への意識づけを向上させる運動も加え実施することで社内美化を継続していきたい。

7 環境関連法規等のとりまとめ順守評価
環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果

主な法規制名称	適正状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
浄化槽法	○
家電リサイクル法	○
消防法	○
フロン排出抑制法	○

当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、過去において違反はありませんでした。
また、関係機関等からの指摘や利害関係者からの訴訟もありませんでした。

確認者 水町 幸浩

8. 代表者による全体の評価と見直しの結果

環境問題に関しては年々深刻さを増しており、予測不可能な自然災害が世界各地で頻発しております。
弊社本社の佐賀においても、例年になく激しい夏の猛暑や冬の寒暖差が顕著になり、地球温暖化の影響を強く実感するようになってまいりました。
エアコンの使用を控えるには限界がある一方で、二酸化炭素の排出削減にも引き続き真剣に取り組まねばなりません。「快適さ」の裏には「節制・努力」が伴うものとして、社員一同、我慢や工夫を重ねながら二酸化炭素抑制に努めております。
さて、2024年度の二酸化炭素排出量に関しては、これまでの取り組みが実を結び、前年に比べて一定の削減効果が見られました。目標達成もでき、現場の努力が数字に現れたことは大きな成果と捉えております。
今後のさらなる削減には限界も見えてきており、設備の刷新や運用の見直しを通じて、省エネルギーを実現していく必要性を感じております。
更に2024年度は二酸化炭素排出量の削減を加速させるために、佐賀県GXモデル企業に選定頂き、GXの取組に真剣に取り組む、2050年カーボンニュートラル実現に向け具体的な行動内容を再設定致しました。その中で、SBT認証を取得し2030年度には二酸化炭素排出量の42%削減を実現するために行動していく事としました。
このため、中長期目標の見直しを行い、本年度は以下の方針で改善に取り組むよう指示をいたしました。
弊社の経営モットーである「環境活動を通して地球保全に取り組む」の精神のもと、特に「卸部門」における配送効率の改善と燃料使用量の抑制を重点施策として継続いたします。EV(電気自動車)導入を2台導入を行う。
営業車の小型化や直送手配を極力行い、EV車導入を力強く進めて参ります。今後も実用性を見極めながら段階的に切り替えを図ってまいります。
また、社内でのエネルギー使用量削減も引き続き重要課題と捉えております。本年度は、事務所の照明や空調機器を省エネ型設備へ更新すると共に、事務所改装に伴い事務所の窓を二重窓を採用したり、断熱材を多く使用したり可能な限り自社の消費を減らす体制を構築してまいります。
総括として、弊社は2025年度も引き続き環境経営方針のもと、持続可能な企業活動を目指します。
特に軽油等の化石燃料使用については、見直しと最小化の努力を継続し、地域・社会・地球環境への責任を果たしてまいります。

2025年4月18日
株式会社 ミズマチ
代表取締役 水町 晋康
11

9. GX活動報告

GXとは、Green Transformation(グリーントランスフォーメーション)の略称で、温室効果ガスを発生させる化石燃料から太陽光発電、風力発電などのクリーンエネルギー中心へと転換し、経済社会システム全体を変革しようとする取り組みを指します。

近年、地球温暖化による気候変動問題などへの対策として、世界各国では温室効果ガス排出量削減が喫緊の課題となっています。日本でも、政府が2050年までに温室効果ガス排出量を全体としてゼロの状態にする「カーボンニュートラル」を目指すと言明しました。カーボンニュートラルを達成し脱炭素社会を実現するためには、数多くの企業による協力が必要です。

近年、地球温暖化現象が刻々と進行する中で、弊社もエコアクションの活動の延長上で更に行動を起こす必要があるとのトップ判断でGX活動への積極化を行いました。

佐賀県の支援もあり、GX企業に選定頂き2024年度中は活動を行い「SBT認証」を取得しました。

更には対外的なアウトプット活動として、佐賀県主催の佐賀県脱炭素経営セミナーなどでの講話等を行いGX活動が広まることを支援しました。

また佐賀市より弊社のGX活動やSDGS活動が評価され「グッドモデル賞」を受賞しました。表彰式に際にも数十社が出席する中、脱炭素経営活動に関する活動報告を行い、卸企業や中小企業がどこでも真似できる活動内容として紹介を行うことが出来ました。

弊社GXスローガン

人と空、水と大地を大切にしたい
グリーンソリューションで牽引する

2050年弊社カーボンニュートラル実現への取組

弊社は、自社で発生するCO₂排出量 (Scope1、2) について、2050年カーボンニュートラル実現に向けて目標を設定し動き出しました。従来よりエコアクション21での活動を通して環境保全に取り組んで参りましたが、自社の脱炭素化を取組をより一層進める為、企業がパリ協定に沿った温室効果ガス排出削減目標を設定し、その達成に向けた計画を評価する国際認証である「**中小企業版SBT認証を取得**」しました。(取得日2024.11.21)
これは会社をあげての未来へのチャレンジです。今できる事を全力に社員一丸となって取り組んで参ります。

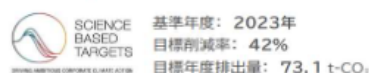
目標内容

2030年度に現状126 t-CO₂→**42%削減**→73.1 t-CO₂

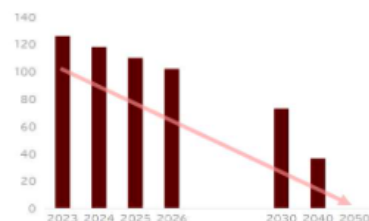
2050年度カーボンニュートラル



SBTより認証された削減目標



削減目標達成のイメージ



自社取組の横展開

パンフレットや動画の作成でミズマチをはじめとするモデル企業の取組を佐賀県内の中小企業に横展開

取組紹介パンフレット

事業内取組の内容をまとめたパンフレットを作成。取組の横展開に加え、自社取組PRへの活用も想定



動画コンテンツ

ガイドブック「中小企業の脱炭素経営手引き」の補足資料となる動画に出演。インタビューにて主に取組開示についてを紹介。



脱炭素経営の進め方を知ってもらうため、県内の中小企業を中心に展開予定

AAKEL TECHNOLOGIES | 17

1/23 佐賀県脱炭素経営セミナー

GXモデル企業の取組紹介にて登壇

概要・目的

- ・ 中小企業に脱炭素経営の必要性・メリットについて「知る」機会を提供
- ・ 脱炭素に取り組みたいと思っている企業にモデル企業の取組紹介で脱炭素経営を身近に感じてもらう、自社取組の参考にしてもらう



AAKEL TECHNOLOGIES | 19

1/9 佐賀市 ゼロカーボンシティ佐賀より「グッドモデル賞受賞」

GXモデル企業の取組紹介にて登壇

概要・目的

- ・ 中小企業に脱炭素経営の必要性・メリットについて「知る」機会を提供
- ・ 脱炭素に取り組みたいと思っている企業にモデル企業の取組紹介で脱炭素経営を身近に感じてもらう、自社取組の参考にしてもらう



AAKEL TECHNOLOGIES | 18